

Title	東洋史専攻大学院生研究会；西洋史学会例会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1970
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.42, No.3 (1970. 2) ,p.97(361)- 97(361)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19700200-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙報

發表要旨

東洋史専攻大学院生研究会

昭和四十四年十月二十二日 於南校舎大学院共同研究室

ムハンマド・アリーの政策

野村秀明

昭和四十四年十二月三日

「東洋とは何か」の問いかけの途上で——主として人権宣言を中心——

荒木稔江

西洋史学会例会

昭和四十四年十二月四日 於三田第一会議室

阿片戦争に至るまでの英国の阿片貿易政策

長谷川次郎

英国外交に関する一視点——ズデーデン問題をめぐって

藤原共代

昭和四十四年十二月十一日 於三田第一会議室

現代の歴史的思考について

雄上 統

統一に至るまでの旧ファランヘ党について

井上卓也

阿片戦争に至るまでの

英国の阿片貿易政策

長谷川次郎

阿片戦争について、これまで多くの史家（特に外交史家）は、その原因を主に对中国外交関係の対等化、中国の対外貿易に課せられた種々の制約の排除、在中國英国人に対する司法権の獲得などの一八世紀末の英国の欲求が爆発した結果であるとし、中国に対する阿片貿易と、その増大に伴う英中関係の緊張化に関しては、阿片戦争の原因としては副次的な意義しか置いて来なかつたと言つてよい。

しかしこれら外交史家の説は、当時英国が阿片戦争を開始するに当つて、英政府がその阿片貿易とその影響に関しては口をつぐんで言及せず、対議会工作、対世論工作として对中国外交関係の対等化などの問題を、ことさら強調したのをうのみにしたもので、受け入れ難い。

阿片戦争の主原因は、やはり英国の对中国阿片貿易そのものの中に、求められるべきものであり、特にその对中国阿片貿易独占を守るべく、一八二〇年代よりとられた一連の政策と、その結果としての阿片貿易量の著しい増大とに求められるべきものであ